

## 2013年第30回日本航空盃日語演講比賽報告書

荒井 智子

### 結果報告

12月8日(日)に台北の福華大飯店において、日本航空スピーチコンテストの本選が行われました。本学から参加した李美玲さんは準優勝(2位)、何宗諭さんは特別賞(4位)を受賞しました。

開催者側からの説明によると、今回のスピーチコンテストの予選に応募したのは46名で、そのうち14名が決勝戦に進出したということです。出場者の出身大学は、台湾大学、政治大学、東呉大学、淡江大学、文化大学、台北大学、中興大学などで、どの出場者もかなり高いレベルの日本語でした。

本学から出場した李美玲さんは、人形を持って表情豊かにスピーチができたこと、質問にこたえるときに堂々と答えられたこと、スピーチの内容が聞いている人たちの心に伝わったことがよい成績をとることに繋がりました。また、何宗諭さんは、発音が正確で、また、ジェスチャーも自然で笑顔も見られました。審査員とのやりとりも丁寧に、そして、ユーモアを持ってできました。

本選までに、主任をはじめ、銘伝大学応用日本語学科の先生方が時間を作り、ご指導、貴重なアドバイスをしてくださいました。学生たちはそれに応えようと練習を重ねてきたことがこのようなよい結果に繋がったのかと存じます。以下、報告書にまとめます。

#### 1. 本選出場者：14名(女子12名、男子2名)

#### 2. 審査員：5名

日本航空台湾支店支店長、多田利郎氏

日本航空台湾支店総務部長、志賀氏

日本航空国際提携部経理、相沢邦彦氏

財団法人交流協会台湾事務所日本語専門家、岩村氏

台北市日僑学校・日本人学校校長、亀山氏

#### 3. 本学参加者：◆予選(原稿とテープ審査)5名

李美玲(3年)「布袋戲とわたし」

何宗諭(3年)「親しき仲にも」

劉芳吟(3年)「自然な笑顔でいられるために」

藍語嫣(3年)「お正月の楽しみ」

曾馨慧(3年)「ココが教えてくれたこと」

#### ◆本選(スピーチと質疑応答)2名

李美玲

何宗諭

4. 結果：李美玲（準優勝）  
何宗諭（特別賞）

5. 出場者のスピーチ・タイトル、および順位

- |                           |                   |
|---------------------------|-------------------|
| ① 中興大学                    | 「人生に大切なこと」        |
| ② 台湾大学                    | 「時間のない生活」         |
| ③ 銘伝大学（何宗諭）               | 「親しき仲にも」 特別賞（4位）  |
| ④ 輔仁大学                    | 「私の秘密」            |
| ⑤ 東呉大学                    | 「今を生きることの価値」      |
| ⑥ 文化大学？（司会者は大学名を言いませんでした） | 「ある川の思い出」         |
| ⑦ 台北大学                    | 「占いについて」          |
| ⑧ 政治大学                    | 「竹の葉に包まれた故郷」      |
| ⑨ 淡江大学                    | 「茶道との絆」           |
| ⑩ 政治大学                    | 「日本ウチとソト」         |
| ⑪ 文化大学                    | 「私たちはマンゴー姉妹」      |
| ⑫ 台湾大学                    | 「私の愛しい台湾」 3位      |
| ⑬ 銘伝大学（李美玲）               | 「布袋戲とわたし」 準優勝（2位） |
| ⑭ 輔仁大学                    | 「ベジタリアン」 優勝（1位）   |

6. 質疑応答について（※青字は銘伝大学の学生に対する質疑）

- ① Q1. もし、プロの通訳者になれたら、どのような通訳者になりたいと思いますか。他の人と  
と  
は違う点について教えてください。
- Q2. どんな方法で、発音をスキルアップさせられますか。
- Q3. 「自分と会話をする」とは、どういうことですか。
- ② Q1. 実体験から話してしてくれましたが、世の中は一人で生活しているわけではないので、あなたの言っていることを実行するのは難しいのではないのでしょうか。
- Q2. 「剣道をしている」ということでしたが、茶道、柔道、花道などの「道」と言われるも  
も  
のは「心を鍛える、鍛錬をすること」で、技術だけではなく、心を向上させることが大  
大  
切だと言われています。あなたの実体験を話してください。
- ③ Q1. 親しみのある日本語が話せるようになるために、どのように努力していますか。
- Q2. 日本語は相手によって言い方を変えて丁寧さを表しますが、中国語ではどのようにしますか。私は中国語を勉強しているので、何か、コツやポイントがあったら教えてください。  
だ  
さい。

- ④ Q1. 他の日本文化に興味がありますか。  
Q2. 浮世絵を見て他の日本文化にも興味を持つようになりましたか。  
Q3. 普段はどのように絵の練習をしていますか  
Q4. 浮世絵が所蔵されているのは日本だけですか。
- ⑤ Q1. 「一瞬の光」という小説以外に、日本の小説を読んだことがありますか。  
Q2. 古い文学、例えば夏目漱石、芥川などは読みましたか。  
Q3. 実際に接して刺激を受けた人はいますか。尊敬している人はいますか。
- ⑥ Q1. 今のあなたの性格に、おじいさんからどのように影響を受けましたか。  
Q2. あなたとおじいさんと似ているところはありますか。  
Q3. 日本語はどのように勉強していますか。
- ⑦ Q1. タロット占い部は台湾大学ですが、あなたのように台北大学の人も入れますか。  
Q2. 「運を占い」と「運命を占う」とは、何が違いますか。  
Q3. 人の運を占う技術はありますか。どのように占いますか。  
Q4. 日本では、今日の運勢で「今日は赤がラッキーカラーだ」とか「金運がある」という言  
言  
い方がありますが、台湾の「運」とは、具体的にどんなものがありますか。
- ⑧ Q1. 自分で粽を作ったことがありますか。  
Q2. 粽以外に、客家料理でお勧めがありますか。紹介してください。  
Q3. 客家の文化で自慢できることがありますか。
- ⑨ Q1. 日本と台湾の茶道の違いは何ですか。  
Q2. 日本の茶道をするとき、着物を着ますか。  
Q3. 「大学3年生まで茶道を続けられたことが不思議」と言っていますが、なぜ不思議だ  
と思うのですか。  
Q4. 「いい友達」とは、どういう意味ですか。
- ⑩ Q1. 日本では、どこに行きましたか。  
Q2. 韓国語と日本語も敬語が多いと言われていますが、どちらのほうが難しいですか。  
Q3. 韓国語は相対敬語、日本語は絶対敬語、と言われていますが、韓国語のほうがむずか  
し  
いのですか。  
Q4. 日本文化と韓国文化の違いは何ですか。興味深いと感じるところはどこですか。  
Q5. 玄関の造りと、日本のウチとソトの文化には関係があると思いますか。  
Q6. これはあなたの感想ですか。それとも、文献からのものですか。  
Q7. 日本への渡航は何回ですか。

- ⑪ Q1. 「友人は大切」と言いましたが、どうしたらいい関係が続けられると思いますか。  
Q2. なぜ日本語を学ぼうと思ったのですか。  
Q3. 日本人と接して、今は何に興味を持っていますか。  
Q4. 日本の夏も暑かったですか。
- ⑫ Q1. チェコに行ったときのことを話してくれましたが、海外旅行ではどこに行ったことがありますか。そのときは、どこの航空会社の飛行機で行きましたか。  
Q2. 「知名度の向上」と言いましたが、台湾で有名になった人はだれですか。  
Q3. これから行きたい国はどこですか。アメリカはどうですか。
- ⑬ Q1. これから袋劇をどのように広げていきたいですか。  
Q2. あなたのブログで、最近はどのようなコメントがありましたか。印象に残っているものがあったら教えてください。  
Q3. 袋劇の物語の内容を教えてください。  
Q4. 一回の劇で、どのくらいの人形が出ますか。  
Q5. どこに行けば袋劇が見られますか。台北市内では見られますか。
- ⑭ Q1. あなたのプロフィールには日本へ行ったことがないと書いてありますが、実際に行ったことはありますか。  
Q2. 日本に行ったとき、どこに行きましたか。そこで何をしましたか。  
Q3. 苦しいときや、食べたいけど食べられないときはどうしますか。

## 7. 審査員の講評

### 財団法人交流協会台湾事務所日本語専門家、岩村氏

- ・内容が面白い。質問するのが楽しみになるような内容である。
- ・発音がきれい。
- ・スピードもちょうどよい。
- ・自分らしさを出せるようにしたほうがよい。単に覚えて言うだけにならないこと。
- ・緊張するのは、集中力が高まるということなので、いい状態だと思う。
- ・社会に問いかけるような内容のほうがよい。
- ・擬音語擬態語などのオノマトペや、会話文を入れると、生き生きとした印象になる。
- ・自分の体験を伝えるだけでなく、聴いている人とコミュニケーションをしているようなスピーチがよいと思う。

### 台北市日僑学校・日本人学校校長、亀山氏

- ・レベルが高く、素晴らしいスピーチが多かった。
- ・発音やアクセントがよい。
- ・タイトルの付け方を工夫したほうが、聴いている人を惹きつけると思う。
- ・スピーチの冒頭部分を工夫したり、起承転結など文の組立てを工夫したりしたほうがよい。

- ・ 比喩を使っているのはすばらしい。「銀河」や「三脚」など
- ・ 慣用句、四字熟語、反復法、倒置法などを使っていてよかった。
- ・ 体験からの切り口がよかった。
- ・ 日本文化への理解が深いことがわかる。

## 8. 感想（荒井）

- a. 私が銘伝大学に着任したのが今年の8月で、本格的に練習を始めたのは10月に入ってからで、例年に比べて練習開始時期が遅くなってしまった。
- b. スピーチコンテストに参加するように声をかけた学生6名全員（文藻のスピーチコンテストの参加者1名を含む）が参加をする意向を示した。しかし人数が多かったため、学生一人にかかる練習時間を多くとることができなかつたと感じる。しかし、学生同士が励まし合うような体制ができて、互いにより刺激になったようである。また、去年の校内スピーチコンテストで1位をとった学生は日本留学中だったため、出場ができなかつた。
- c. 予選通過の知らせは11月20日ごろだったため、それまで6人体制で練習を続けた。通知がなかなか来なかつたため、教師から主催者に電話で結果を尋ねた。通過できなかった学生たちの落胆は大きく、また、通過した学生の心理的影響も少なくなかつた。
- d. 本間先生、川合先生、羅先生には、予選を通過した2名のスピーチ原稿の内容、また、質疑応答などについて、予選通過者の通知をもらってから何度も相談させていただいた。また、楊先生には発音の指導を度々していただいた。先生方が時間をとってくださり、今までのご経験からの貴重なアドバイスをくださったおかげで、学生の持つ能力や魅力を引き出すことができた。
- e. 本選の1週間前に、授業中の教室まわりを行った。先生方や学生たちからのアドバイスを得られたこと、また、人前でスピーチすることに徐々に慣れ、本番への気持ちを高められたことなど、大きな収穫となった。また、スピーチをしているときの様子を録画して学生に見せた。自らの姿を客観的に見た後は、練習内容が広がり、さらに意欲が出た。
- f. 出場者の日本語レベルが高く、また、内容も深い。とくに、質疑のときの受け答えは自然だった。内容も、輔仁大学や台湾大学の学生のスピーチ内容は知的であり社会的な要素もあった。日本語能力の高さだけで点数に差をつけるのは難しく、今後は学生の柔軟な思考力や多様な社会性などもますます評価の対象になっていくのではないかと思われた。
- g. 引率で来ていた他大学の教師の話によると、「前半の時間にスピーチをした7名の中から

入賞者が何人か決まり、また、後半の 7 名からも入賞者が何人か決まるだろう」とのことだった。真偽は不明だが、今回の結果でも、前半 1 名、後半 3 名、という結果になっていた。1 番はじめにスピーチをした学生の日本語能力は大変高いと私自身感じたが受賞はしていなかった。1 番目という順序は、各審査員の基準が決定するまで時間がかかるため、やはり不利なのだろうか。このことについては確証を得ることはできない。

以上



